

青々した葉が生い茂り、日差しが心地よい季節になってまいりましたね。

「非認知機能」最終回の今回は、かなでで実践している非認知機能の育成について、ご紹介いたします。

＜自分を高める力＞

意欲をもって活動したり、挑戦する力を育むために、指導員と一緒に「まずはやってみよう」と一緒にその活動に参加したり、活動の場の様子を見てもらう、または出来る所からスタートし、苦手な所、自信がないところはサポートしながら、「やってみたら出来た」という成功体験を積み重ねられるようなかわりを大切にしています。

そして少しずつ出来る部分を増やししながら「苦手だけどやってみよう」

「上手いかなかった、でも次はこうしてみよう」

と継続的に挑戦する力や最後まで諦めずに取り組む力を育てています。



実践してみてどうだったか感想を尋ねたり、その中から生まれた気づきや疑問を大切にし、次はどのようによいだろうかと子ども本人と一緒に考えながら次へ繋げていけるよう支援をしています。

＜自分と向き合う力＞

自分の思い通りにいかない出来事や場面に直面した時に、何をどうしたいのか、どうしたかったのかななどを代弁したり、本人の思いを受けとめ、その気持ちと向き合いどこで折り合いをつけていくのかを考えたり、話し合いの中で自己の調整をすることが出来るよう手立てしています。

自分の気持ちや考えを言葉にする機会を設け、自分の感情や考えを可視化して整理しています。また、表面的な感情だけではなく、その奥底にある自分の気持ちに気づけるようなかわりを心がけています。



＜他者とつながる力＞

様々な年齢の他者とかかわる中で、どのように伝えと他者と円滑にかかわることができるのか、相手との関係性によって表現する言葉を選ぶなど他者とのかわりを通して、言葉で自己表現したり、相手の意見に耳を傾けられるようなかわりを大切にしています。



また、ディスカッションする機会を設け、相手の意見に耳を傾けたり、自分の意見を伝えることで自分の考えだけではなく他者の意見を知るきっかけづくりや気持ちの共感や共有など、他者とつながる力を育ていけるよう支援しています。

そして時には同じ目標に向かって切磋琢磨したり、皆で協力しながら試行錯誤していける活動を取り入れています。

現在取り入れている認知機能トレーニング（コグトレ）と今回ご紹介した「非認知機能」はそれぞれ片方だけを育むと良いというわけではありません。双方の機能を育むことで他の力とも絡み合いながら伸びていくものですので、今後も双方の機能を育み、バランスよく高めていけるよう継続的に支援していきたいと考えています。